

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-213389

(P2001-213389A)

(43) 公開日 平成13年8月7日 (2001.8.7)

(51) IntCl⁷

識別記号

F I

テーマコード(参考)

B 6 3 B 35/73

B 6 3 B 35/73

H

B 6 3 H 11/02

B 6 3 H 11/02

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2000-26360 (P2000-26360)

(22) 出願日 平成12年2月3日 (2000.2.3)

(71) 出願人 000010076

ヤマハ発動機株式会社

静岡県磐田市新貝2500番地

(72) 発明者 吉田 光盛

静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機株式会社内

(72) 発明者 仲川 登

静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機株式会社内

(74) 代理人 100067828

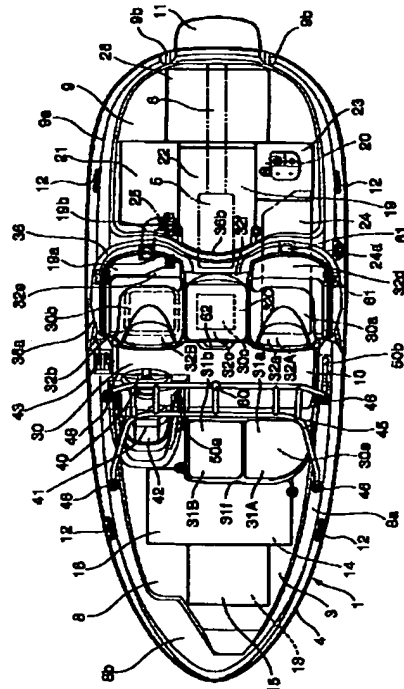
弁理士 小谷 悦司 (外2名)

(54) 【発明の名称】 ジェットポート

(57) 【要約】

【課題】 ウェイクボードとバスフィッシングとの双方を最適状態で楽しめることを可能としたジェットポートを提供する。

【解決手段】 艇体4の後下部にジェット推進機6が搭載されたジェットポート1であって、上記艇体4の前上部と後上部とにフラットデッキ8、9が設けられ、この前後のフラットデッキ8、9の間にコックピット10が設けられ、このコックピット10には、前後向かい合わせにシート31A、31B、32A、32B、32Cが設けられている。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 艇体の後下部にジェット推進機が搭載されたジェットボートであって、

上記艇体の前上部と後上部とにフラットデッキが設けられ、この前後のフラットデッキの間にコックピットが設けられ、このコックピットには、前後向かい合わせにシートが設けられていることを特徴とするジェットボート。

【請求項2】 上記前向きのドライバーシートの前方位置にステアリングボックスが配置され、このステアリングボックスの側方位置に後向きのシートが設けられている請求項1に記載のジェットボート。

【請求項3】 上記コックピットを艇幅方向に跨ぐタワーが艇体に着脱可能に取付けられる請求項1又は請求項2に記載のジェットボート。

【請求項4】 上記フラットデッキに、キャストイングシートが着脱可能に取付けられる請求項1～請求項3のいずれかに記載のジェットボート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ウェイクボードとバスフィッシングとの双方に最適なジェットボートに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、艇体の後下部にジェット推進機が搭載されたジェット推進艇（ウォータージェット）が実用化されている。また、艇体の後部に船外機が取付けられたバスフィッシングボートも実用化されている。

【0003】上記ジェット推進艇は、跨座式シートに複数の乗員が前向きに跨って乗るものであるが、ウェイクボードをロープで引っ張って水上滑走を楽しむこともできる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記ジェット推進艇でウェイクボードをロープで引っ張る場合、艇体の高い位置にロープをフックできないから、引き波を利用したハイジャンプ等が思うように行えなかった。また、乗員の全てが前向きであるから、ウェイクボードの状況が分かりにくかった。さらに、ジェット推進艇でバスフィッシングをするにしても、フラットデッキが少ないので艇体の上に立ったままで思いの方向にキャストイングをすることが困難であった。

【0005】一方、バスフィッシングボートには、立ったままで思いの方向にキャストイング可能なフラットデッキが艇体の前後に設けられているが、特に後フラットデッキでキャストイングする場合、船外機が邪魔になってアンダーキャストイングをすることが困難であった。また、上記ジェット推進艇と同様に、ウェイクボードをロープで引っ張る場合、艇体の高い位置にロープをフックできないから、引き波を利用したハイジャンプ等が思

うように行えないと共に、全てのシートが前向きであるから、ウェイクボードの状況が分かりにくかった。

【0006】本発明は、上記従来の問題を解決するためになされたもので、ウェイクボードとバスフィッシングとの双方を最適状態で楽しめることを可能としたジェットボートを提供することを目的とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、本発明は、艇体の後下部にジェット推進機が搭載されたジェットボートであって、上記艇体の前上部と後上部とにフラットデッキが設けられ、この前後のフラットデッキの間にコックピットが設けられ、このコックピットには、前後向かい合わせにシートが設けられていることを特徴とするジェットボートを提供するのである。

【0008】本発明によれば、ジェットボートの艇体の前後のフラットデッキの間に設けられたコックピットに、前後向かい合わせにシートが設けられているから、ジェットボートでウェイクボードをロープで引っ張る場合、後向きのシートに乗員が座ることにより、ウェイクボードの状況が分かりやすくなって、ドライバーに対するジェットボートの停止・旋回・加速等の指示が迅速に行えるようになる。なお、単に艇体の前後にフラットデッキを設けただけのものではなく、コックピットに前後向かい合わせのシートを設けたことにより、シート数を確保しつつ、前後にフラットデッキを設けることが可能になるものである。

【0009】また、ジェットボートの前後にフラットデッキが設けられているから、各フラットデッキの上に立ったままで思いの方向にキャストイングをすることができると共に、特に後フラットデッキでキャストイングする場合、ジェットボートには船外機が無いので、アンダーキャストイングも容易に行えるようになる。

【0010】このジェットボートによって、ウェイクボードとバスフィッシングとの双方を最適状態で楽しむことができる。

【0011】請求項2のように、上記前向きのドライバーシートの前方位置にステアリングボックスが配置され、このステアリングボックスの側方位置に後向きのシートが設けられている構成であれば、前向きのドライバーと後向きの乗員との位置が近くなるから、後向きの乗員が前向きのドライバーに対してアイコンタクトでウェイクボードの状況をより迅速に指示できるようになる。

【0012】請求項3のように、上記コックピットを艇幅方向に跨ぐタワーが艇体に着脱可能に取付けられる構成であれば、ジェットボートでウェイクボードをロープで引っ張る場合、艇体の高い位置にロープをフックできるから、引き波を利用したハイジャンプ等が思うように行えるようになる。

【0013】請求項4のように、上記フラットデッキに、キャストイングシートが着脱可能に取付けられる構

成であれば、キャスティングシートに座ってバスフィッシングを行うことができる。なお、キャスティングシートは、前後のフラットデッキのいずれにも取付けることができる。

【0014】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面を参照して詳細に説明する。

【0015】図1は4人乗りジェットボート1であって、タワー45のみを取付けてウェイクボードに最適なジェットボートに設定されている。

【0016】図2は平面図、図3は側面図、図4は背面図、図5は側面断面図であって、上記ジェットボート1は、FRP製の船体（ハル）部材2とデッキ部材3とを周縁部分で接合して艇体4が構成されている。

【0017】上記艇体4の船体部材2の後下部には、エンジン5で駆動されるジェット推進機6が搭載され、このジェット推進機6は、具体的に図示しないが、エンジン5によるインペラの回転で、艇底の水吸い込み口から吸い込んだ水をノズルから後方に噴射することによりジェットボート1を前進させるものであり、ステアリングハンドル40によるノズルの左右揺動操作でジェットボート1を左右旋回させると共に、操作レバーによるノズルバケットの上下揺動操作でジェットボート1を後進させることができる。

【0018】上記艇体4のデッキ部材3の前（船首側）上部と後（船尾側）上部とにフラットデッキ8、9がそれぞれ設けられ、この前後のフラットデッキ8、9の間にコックピット10が設けられている。

【0019】上記前フラットデッキ8の外周囲には上方に隆起するブルワーク8aが形成されると共に、後フラットデッキ9の外周囲にも上方に隆起するブルワーク9aが形成されている。なお、後フラットデッキ9のブルワーク9aの船尾端側の左右位置には凹部9bがそれぞれ形成され、この凹部9bの間に位置して、上記船体部材2の船尾端には後方に突出するステップ11が取付けられ、このステップ11は、上記ジェット推進機6のノズルやノズルバケットの上方をカバーしている。また、後フラットデッキ9に腰掛けてステップ11にウェイクボードを置くことにより、ウェイクボードを簡単に履くことができる。

【0020】上記前フラットデッキ8のブルワーク8aと後フラットデッキ9のブルワーク9aの両外側面にはクリート12がそれぞれ取付けられている。

【0021】上記前フラットデッキ8の船首側の右側位置には、後述する電動式の船外機49（図6（a）参照）を水中から引き上げ可能に支持するブラケット（不図示）を取付ける取付け面8bが形成されている。

【0022】上記前フラットデッキ8の前後位置には開口がそれぞれ形成され、この各開口に対応する船体部材2には収納庫13、14が設けられて、この各開口は、

閉止時には前フラットデッキ8と面一となる開閉自在なハッチ15、16でそれぞれ閉じられている。なお、前位置の収納庫13には、開口に嵌め込み可能なトレー17が収納されている。

【0023】上記後フラットデッキ9の前位置には艇幅方向に3個の開口が形成され、右側の開口に対応する船体部材2には収納庫（不図示）が設けられ、真ん中の開口（エンジン点検用開口）に対応する船体部材2には、上記エンジン5を搭載したエンジンルーム19が設けられ、左側の開口（オイル補充用開口）に対応する船体部材2にはオイルタンク20が取付けられて、この各開口は、閉止時には後フラットデッキ9と面一となる開閉自在なハッチ21、22、23でそれぞれ閉じられている。なお、上記オイルタンク20の前方位置の船体部材2には燃料タンク24が取付けられて、この燃料タンク24の燃料補給用キャップ24aが上記ブルワーク9aの外側面に臨まれている。

【0024】上記エンジンルーム19には、換気用吸気ダクト19aと換気用排気ダクト19bとが設けられ、換気用吸気ダクト19aは、後述するシートモール36の前端開口36a（図1参照）に臨まれていると共に、換気用排気ダクト19bは、強制排気用ブロー25を介してシートモール36の後端開口36b（シートモール36の後端部と後フラットデッキ9の上面との間に形成される隙間）に臨まれている。なお、61は、各タンク20、24の収容空間用の換気口であり、換気用排気ダクト19bと同様に、シートモール36の後端開口36bに臨まれている。

【0025】上記後フラットデッキ9の後位置には1個の開口（ジェット推進機点検用開口）が形成されて、この開口は、閉止時には後フラットデッキ8と面一となる開閉自在なハッチ26で閉じられている。なお、この開口には嵌め込み可能なトレー27が収納されている。このハッチ26に対しては、ハッチ26が開いたままのときには、エンジン5が停止又は起動しないようにするためのエンジンストップスイッチが設けられている。

【0026】一方、上記コックピット10には、前後のフラットデッキ8、9よりも低い位置に形成されたデッキ30に設けられ、このコックピット10のデッキ30の上には、前後2個づつ向かい合わせで、計5個の後向きシート31A、31Bと前向きシート32A、32Bとセンターシート32Cとが設けられている。

【0027】上記デッキ30の左右両側位置から上方に突出された左シート台30aと右シート台30bの上に水平に跨るよう艇幅方向に延びるとともに後端部から上方に立ち上がるシートベース35が設けられ、このシートベース35の左シート台30aと右シート台30bに対応した水平部分に、前向きシート32A、32Bのクッション32a、32bがそれぞれ固定されると共に、各前向きシート32A、32Bの間にはセンターシート

32Cのセンタークッション32cが固定されている。
【0028】上記シート台30a、30bの間のデッキ30には空間30cが形成され、この空間30cには後述する電動式の船外機用バッテリー（不図示）が取付けられている。

【0029】上記左右のシート台30a、30bの上部には収納用凹部30dがそれぞれ形成され、この各収納用凹部30dの開口及び上記空間30cは、上記シートベース35でカバーされるようになる。

【0030】上記シートベース35の左シート台30aと右シート台30bに対応した立ち上がり部分に、前向きシート32A、32Bとセンターシート32Cの背もたれ32d、32e、32fがそれぞれ固定されている。

【0031】上記シートベース35の立ち上がり部分の上部には、平面視（図2参照）で略W形状の中空シートモール36が一体的に形成され、このシートモール36は、上記後フラットデッキ9にヒンジ37（図5参照）で連結されている。これにより、図5に二点鎖線で示すようにセンターシート32Cの下側のシートベース35に取付けられたグリップ62（図2参照）を握り、ヒンジ37によりシートモール36とシートベース35とともに各前向きシート32A、32B及びセンターシート32Cを上方に跳ね上げて、上記左右のシート台30a、30bの各収納用凹部30dの開口及びデッキ30の空間30cを開くことができる。

【0032】上記右側の前向きシート30Bはドライバーシートであり、この前向きのドライバーシート30Bの前方位位置には、ステアリングハンドル40やメーター類が取付けられたステアリングボックス41が配置され、このステアリングボックス41の上部には透明フード42が取付けられている。また、このドライバーシート30Bの右側方位位置のデッキ部材3には操作レバー類43が取付けられている。

【0033】上記ステアリングボックス41の左側方位位置には、上記デッキ30から上方に突出されたシート台30eが設けられ、このシート台30eの上に後向きシート31A、31Bのクッション31a、31bが横並びでそれぞれ固定されて、この各後向きシート31A、31Bの背もたれは、前フラットデッキ8の後端部とデッキ30の前端部との間の立て壁部分30fを利用して

いる。
【0034】右側の後向きシート31Bは、前向きシート32A、32Bの間のセンターシート32Cの真向かいに位置しており、したがって、右側の後向きシート31Bに着座した者は、後方を見ながら右側の前向きシート32Bに着座したドライバーと近い位置で向かい合うことができる。なお、ステアリングボックス41の左側面には、右側の後向きシート31Bに着座した者が握れるグリップ50aが取付けられ、艇体4の左側方位位置の

デッキ部材3にもグリップ50bが取付けられている。

【0035】上記コックピット10のステアリングボックス41のほぼ真上位置には、コックピット10を艇幅方向に跨ぐ逆U形状のフレーム型タワー45が配置され、このタワー45の両下端部は、デッキ部材3の両側方位位置に取付け金具46で着脱可能に取付けられている。このタワー45には、ウェイクボードのロープをフックするためのフック60が最上部位置に設けられると共に、ドライバーが後方を見るためのバックミラー47が設けられている。なお、タワー45の右側部に、不使用時にウェイクボードをセットするための金具50（図1参照）を取付けることができる。

【0036】図6に示すように、上記前フラットデッキ8の上部には、キャストリングシート48のボール48aが着脱可能に取付けられている。なお、後フラットデッキ9の上部にもキャストリングシート48のボール48aを着脱可能に取付けることができる。また、上記前フラットデッキ8の船首側の右側位置の取付け面8bには、電動式の船外機49が置かれている。この電動式の船外機49は、バスフィッシング時に水中に下ろして、キャストリングシート48に着座した者が足で操作してジェットポート1を微妙にコントロールするためのものであり、上記シート台30a、30bの間の空間30cのバッテリーを動力源として静かに駆動する。

【0037】上記ジェットポート1において、図1～図5に示したように、艇体4にタワー45のみを取付けた場合、艇体4の前後のフラットデッキ8、9の間に設けられたコックピット10に、前後向かい合わせのシート31A、31B、32A、32B、32Cがそれぞれ設けられているから、タワー35の最上部位置にロープをフックしてウェイクボードを引っ張る場合、後向きのシート31A、31Bに乗員が座ることにより、ウェイクボードの状況が分かりやすくなって、ドライバーに対するジェットポート1の停止・旋回・加速等の指示が迅速に行えるようになる。

【0038】特に、ステアリングボックス41の右側の後向きシート31Bに着座した者は、後方を見ながら右側の前向きシート32Bに着座したドライバーと近い位置で向かい合うことができるから、後向きの乗員が前向きのドライバーに対してアイコンタクトでウェイクボードの状況をより迅速に指示できるようになる。

【0039】また、タワー45の最上部位置のフック60にロープをフックできるから、引き波を利用したハイジャンプ等が思うように行えるようになる。

【0040】なお、本実施形態では、単に艇体4の前後にフラットデッキ8、9を設けただけのものではなく、コックピット10に前後向かい合わせに、計5席の後向きシート31A、31Bと前向きシート32A、32Bとセンターシート32Cとを設けたことにより、シート数を確保しつつ、前後にフラットデッキ8、9を設ける

ことが可能になったものである。

【0041】上記ジェットポート1において、図6に示したように、前フラットデッキ8にキャストリングシート48のみを取付けた場合、ジェットポート1の前後にフラットデッキ8、9が設けられているから、各フラットデッキ8、9の上に立ったままで思いの方向にキャストリングをすることができると共に、特に後フラットデッキ9でキャストリングする場合、ジェットポート1には、船体部材2の後下部のジェット推進機6のみで、航走用の船外機が無いので、アンダーキャストリングも容易に行えるようになる。なお、後フラットデッキ9にもキャストリングシート48を取付けることができる。

【0042】このように、キャストリングシート48とタワー45がそれぞれ艇体4に着脱自在であることから、キャストリングシート48のみを取付ければバスフィッシングに最適なジェットポート1となり、タワー45のみを取付ければウェイクボードに最適なジェットポート1となり、キャストリングシート48とタワー45とを取外せば、通常のジェットポート1にもなるので、様々なポートライフを最適状態で楽しむことができる。

【0043】

【発明の効果】以上の説明からも明らかなように、本発明は、ジェットポートの艇体の前後のフラットデッキの間に設けられたコックピットに、前後向かい合わせにシートが設けられているから、ジェットポートでウェイクボードをロープで引っ張る場合、後向きのシートに乗員が座ることにより、ウェイクボードの状況が分かりやすくなって、ドライバーに対するジェットポートの停止・旋回・加速等の指示が迅速に行えるようになる。

【0044】また、ジェットポートの前後にフラットデッキが設けられているから、各フラットデッキの上に立ったままで思いの方向にキャストリングをすることができると共に、特に後フラットデッキでキャストリングする場合、ジェットポートには船外機が無いので、アンダーキャストリングも容易に行えるようになる。

【0045】このジェットポートによって、ウェイクボードとバスフィッシングとの双方を最適状態で楽しむことができる。

【0046】また、請求項2のように、前向きのドライ

バーシートの前方位置にステアリングボックスを配置し、このステアリングボックスの側方位置に後向きのシートを設けると、前向きのドライバーと後向きの乗員との位置が近くなるから、後向きの乗員が前向きのドライバーに対してアイコンタクトでウェイクボードの状況をより迅速に指示できるようになる。

【0047】さらに、請求項3のように、コックピットを艇幅方向に跨ぐタワーを艇体に着脱可能に取付けると、ジェットポートでウェイクボードをロープで引っ張る場合、艇体の高い位置にロープをフックできるから、引き波を利用したハイジャンプ等が思うように行えるようになる。

【0048】さらに、請求項4のように、フラットデッキにキャストリングシートを着脱可能に取付けると、キャストリングシートに座ってバスフィッシングを行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明のジェットポートのタワー取付け時の斜視図である。

【図2】 図1のジェットポートの平面図である。

【図3】 図2の側面図である。

【図4】 図3の背面図である。

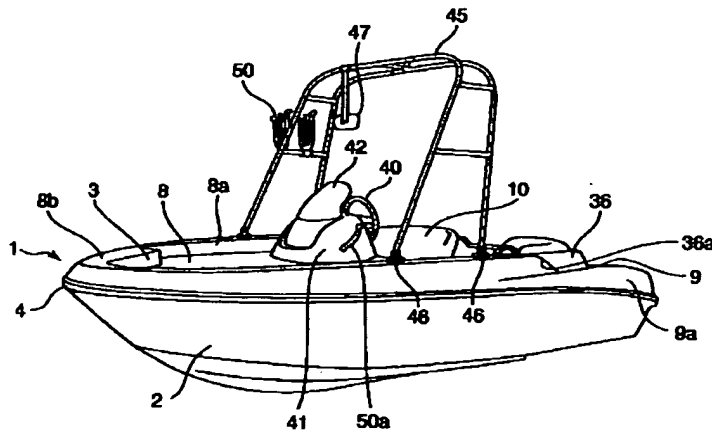
【図5】 図2の側面断面図である。

【図6】 キャストリングシートを取付けたジェットポートであり、(a)は要部平面図、(b)は要部側面図である。

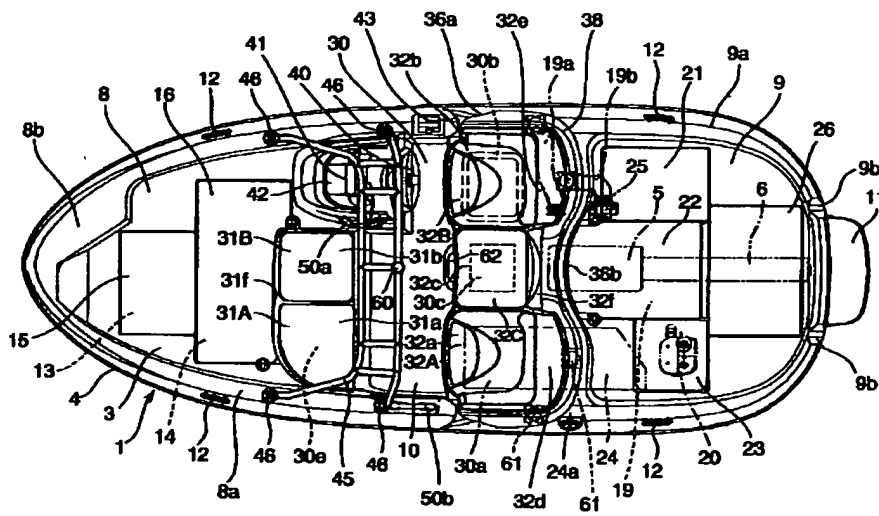
【符号の説明】

- 1 ジェットポート
- 3 デッキ部材
- 4 艇体
- 6 ジェット推進機
- 8, 9 フラットデッキ
- 10 コックピット
- 31A, 31B 後向きシート
- 32A, 32B, 32C 前向きシート
- 41 ステアリングボックス
- 45 タワー
- 48 キャストリングシート

【図1】

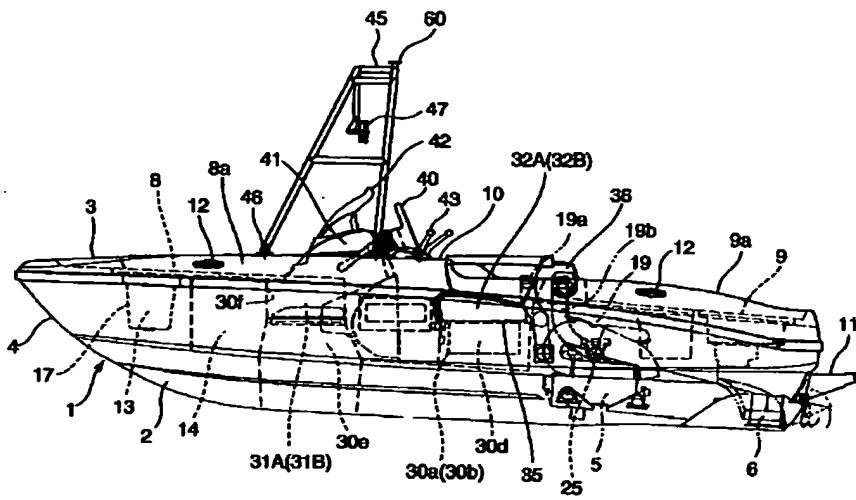


【図2】

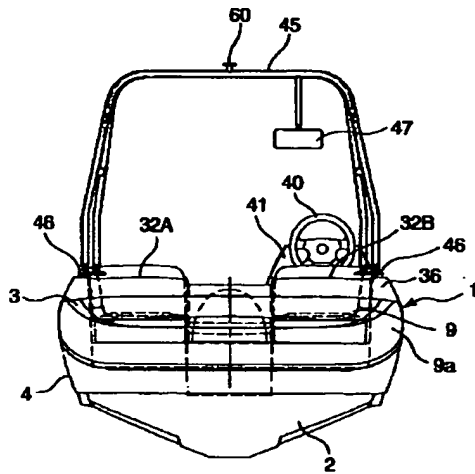


BEST AVAILABLE COPY

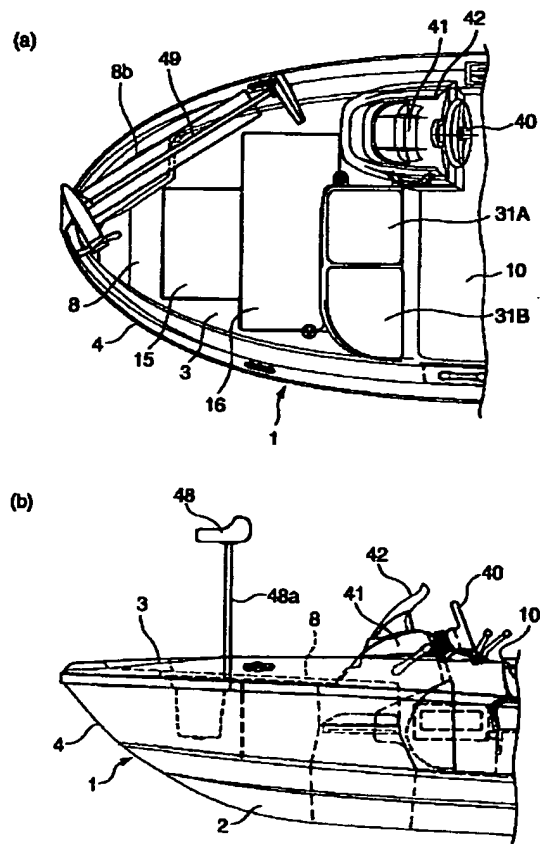
【図3】



【図4】

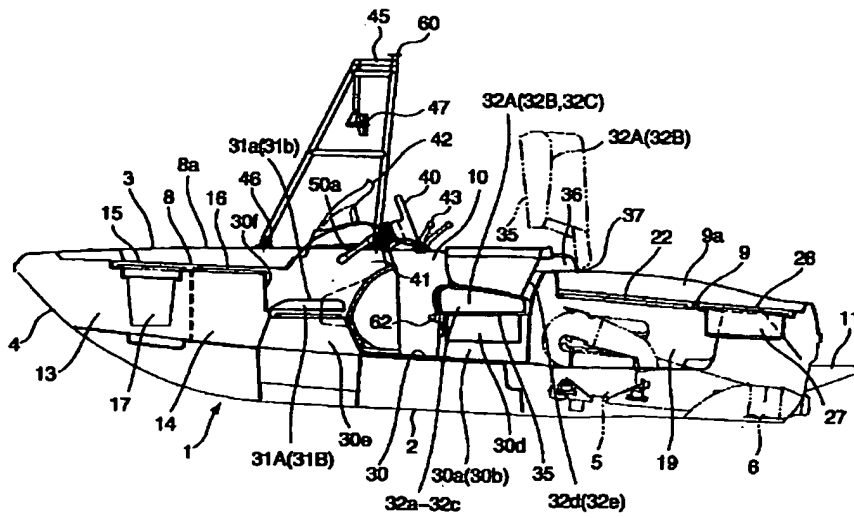


【図6】



BEST AVAILABLE COPY

【図5】



BEST AVAILABLE COPY